



# 白河二中だより

NO. 4  
2024. 4. 26  
白河市立白河第二中学校  
発行責任者 小野 聡

## 本格的にスタート

22日(月)に部活動結成式を行いました。

3年生が中心となり、部の練習内容や約束事などの確認を進め、全員で自己紹介などを行うことで緊張をほぐし、和を深めていたようです。

その日からスタートした練習には、3年生の全体をリードする責任感のある姿、2年生の澁刺とした姿、そして、1年生の一生懸命に先輩達について行こうとする姿や先輩の教え通りにプレーしたり、演奏したりする姿で溢れていました。

しかし、翌日の登校時には、1年生の疲れた表情も多く見られました。体力的に練習についていくことが厳しい状況の1年生もいるかと思いますが、目指すところは文武両道、勉強と部活動の両立です。保護者の皆さんも同様の壁にぶつかりながらも、それぞれの努力と工夫で乗り越えてきたことでしょうか、是非、自分の経験を踏まえて、お子さんにエールとアドバイスを送っていただければと思います。

## 地域のためにも

25日(木)、火災を想定した避難訓練を行いました。本校では年に2回実施していますが、今回の目的は、火災時の避難行動の取り方、そして、室内から校庭への避難経路の確認でした。

全員が避難訓練の意義や重要性を理解して参加することができており、白河消防署の根本長樹署長さんからの講評において、「全校生が素早く避難でき、素晴らしい訓練となった。」とお褒めの言葉をいただきました。また、「学校火災は1年に200件ほど起こっており、十分に気を付ける必要がある。」ことなどについてもお話いただきました。

これからの生活において、学校以外での火災に遭遇することもあるかもしれません。まずは、自分の命を守ることが一番ですが、さらに、その場の状況を把握し、近所の方に火災を伝えたり、消防署に通報したりするなどの素早い判断、行動が、人の命を守ることにつながります。いわゆる「共助」の心を持ち、地域のために活動できる中学生へと育てていってほしいと思います。



## 「ひらいてワクワク めくってドキドキ」(こどもの読書週間スローガン)



読書をすることによって、たくさんの知識を身につけることができたり、先人と会話することができたりするなど、たくさんの良さがあることを誰もが理解していながらも、子ども達の手にあるのは本ではなく、……。このような時代ですので、本と向き合う時間を設定することは、非常に大切なことだと認識しています。HPにも掲載しましたが、本校では、8時15分からの10分間は朝の読書をするを基本としています。子ども達の心を豊かにし、感性を磨くためにも、1冊でも多くの本と触れ合ってほしいと考えています。

4月23日～5月12日までの20日間は「こどもの読書週間」です。今年度は、図書委員会と学校司書の鈴木千彩子先生が中心となり、この期間(本校では5月17日まで)に借りた冊数の多いクラスや多読者を発表するなどの企画を打ち立てました。ご家庭でも子どもの読んでいる本を話題にするなど、読書に関心を寄せていただければと思います。